

令和6年11月21日

広島信用金庫

令和6年度 上半期業績 について

広島信用金庫（理事長 川上 武）の令和6年度上半期業績につきまして、下記のとおり、お知らせいたします。

記

1. 令和6年度 上半期業績概要

(1) 業容について

預 金	1,685,583百万円	(前期比 14,506百万円増)	0.8%増)
貸 出 金	1,065,419百万円	(前期比 4,579百万円増)	0.4%増)

預金は、地域に密着した営業活動を推進してまいりました結果、6年3月末比 145億円増加し、1兆6,855億円となりました。

貸出金は、地域経済の活性化を図るため、地域の皆さまの資金ニーズに積極的に対応いたしました結果、6年3月末比 45億円増加し、1兆654億円となりました。

(2) 利益について

経 常 収 益	10,619百万円	(前年同期比 24百万円増)	0.2%増)
実質業務純益	1,890百万円	(前年同期比 126百万円減)	6.2%減)
コア業務純益	2,016百万円	(前年同期比 123百万円減)	5.7%減)
経 常 利 益	1,245百万円	(前年同期比 82百万円減)	6.2%減)
当 期 純 利 益	887百万円	(前年同期比 83百万円減)	8.5%減)

有価証券利息や役務取引等収益の増加などにより、経常収益は前年同期比24百万円増収の106億19百万円となりました。

一方、預金金利の引き上げによる預金利息の増加や給与体系の見直しに伴う人件費の増加により、コア業務純益は1億23百万円減益の20億16百万円、経常利益は82百万円減益の12億45百万円、最終利益である当期純利益は83百万円減益の8億87百万円となりました。

(3) 不良債権の処理状況について

資産のさらなる健全化をはかるべく、厳格な自己査定にもとづく不良債権の処理を行いました結果、令和6年度上半期における不良債権処理額は4億55百万円（前年同期比3億7百万円減）となりました。

(4) 信用金庫法および金融再生法による開示債権について

(金額単位：百万円)

	開示額 ①	担保・保証等 ②	貸倒引当金 ③	保全率 (②+③) / ①
破産更生債権等	3,252	780	2,472	100.0%
危険債権	27,617	15,690	5,253	75.8%
要管理債権	664	387	64	68.0%
三月以上延滞債権	23	23	—	100.0%
貸出条件緩和債権	640	364	64	66.8%
小計	31,533	16,858	7,790	78.1%
正常債権	1,038,778			
合計	1,070,312			

信用金庫法および金融再生法上の不良債権額は、315億33百万円（6年3月末比15億46百万円増、5.1%増）、不良債権比率は2.94%となりました。

なお、不良債権額のうち78.1%は、担保・保証および貸倒引当金により保全がはかられております。

(5) 自己資本比率（国内基準）について

自己資本総額 ① - ②	106,897 百万円
コア資本に係る基礎項目 ①	110,100 百万円
コア資本に係る調整項目 ②	3,202 百万円
リスクアセット	818,053 百万円
自己資本比率	13.06%

自己資本比率は、6年3月末比0.13ポイント低下の13.06%となりましたが、引き続き、国内基準の4.0%を大きく上回っております。

(6) 令和6年度決算予想（令和7年3月期予想）

- ・ 経常利益 26 億円程度
- ・ 当期純利益 18 億円程度
- ・ 自己資本比率 13 %台
- ・ 不良債権比率 2 %台

[お問い合わせ先] 経営企画部 広報室 TEL 082(245)0030